

# 平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校卒業後は約90%が上級学校（大学・短大・専門学校）への進学を希望している。</li> <li>A O入試、推薦入試で進学する生徒の割合は約90%である。</li> <li>個別の進路指導、進路情報の提供について、それぞれ保護者の76.7%、85.8%が、適切な進路指導をしていると評価している。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の発達の段階に応じたキャリア教育を推進する。 ◇望ましい勤労観・職業観を生徒自ら形成・確立できるようにする。 ◇将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるようにする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導委員会</li> <li>教育課程委員会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 計画的、組織的な進路指導体制を確立する。卒業後も見通した全体計画、年間指導計画となるよう工夫改善する。 (2) 体験的な学習や外部の教育力を活用する。 (3) 情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。	(1) アンケート調査における満足度及び進路希望調査。 (2) 事前指導・事中指導・事後指導の充実度、生徒による自己評価と総括（事後報告書）。 (3) アンケート調査における満足度。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路の手引き」の全面改訂及び「受験の手引き」「就職の手引き」の新規発行</li> <li>進路ガイダンス、進路講演会、小論文・面接講座の実施</li> <li>インターンシップへの参加</li> <li>実力テスト、外部模試、適性検査の実施と説明会の実施</li> <li>土曜補習「受験サプリ」（リクルート）の実施</li> <li>平常補習、夏季補習の実施</li> <li>小論文指導、面接指導の実施</li> <li>就職希望者に対して就職講話、面接指導を実施</li> <li>「進路だより」の発行</li> <li>上級学校の案内、募集要項等の資料の整理</li> </ul>	① 生徒が自らの在り方や生き方について考えることができたか。 ② 将来に対する目的意識を持つことができたか。 ③ 生徒の実態にあった指導であったか。 ④ 適切な情報提供をすることができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「推薦入試」や「A O入試」を有効利用できるような体制づくりのひとつとして「進路の手引き」の全面改訂を行った。</li> <li>○上級学校の案内等の資料をより利用しやすくした。</li> <li>○全職員による進学者の小論文、面接指導ができた。</li> <li>○各学年の進路ガイダンスをはじめ、進路講話、インターンシップ等のキャリア教育の推進ができ、生徒の進路意識高揚に繋げることができた。</li> <li>○看護医療系への進学希望者に対する進路ガイダンス、小論文講座、面接講座を</li> </ul>	
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>

<p>新たに実施し、4年制大学への合格者も増加した。  ○公募制推薦入試でよりレベルの高い大学に挑戦する生徒が増加した。  ○土曜補習「受験サプリ」の受講者が増加した。34名受講。  ○就職希望者が1次で全員合格することができた。  ▲土曜補習を「代ゼミサテライン」から「受験サプリ」への変更に伴って講座数が倍増したため平日も実施したが、補習の実施やテキスト準備等担当教員の負担がかなり大きかった。  ▲「進路だより」の発行が昨年度と比較して、少なかった。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土曜補習の実施方法について、土曜日の講座数を倍にし、夏休み8月前半も実施するなどして平日の実施はなくしたい。</li> <li>E S Dにおける本校の様々な教育活動の成果を踏まえ、「推薦入試」や「AO入試」を有効利用できるように体制づくりを継続したい。</li> <li>「福祉の町づくり」を進める地域や生徒・保護者の期待に応え、看護系進学希望者に対して外部講師による講演会や小論文対策講座、面接対策講座を実施したが、成果もある程度出てきているので来年度は講座の回数を増やし実施していきたい。</li> <li>間近に迫る高大接続の制度改革を見据えながら、十年後の本校のあるべき姿を的確に捉え、進路指導体制の改善に向けて検討していきたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月12日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私立大学から多くの指定校推薦を獲得しており、きめ細かな指導の伝統を感じております。</li> <li>進路の手引き改訂や他分野の手引きの新規発行なども随時行われており、生徒も安心して情報が得られていると思われます。</li> <li>生徒の発達の段階に応じたキャリア教育の推進は評価します。</li> <li>一人一人の個性と能力に応じた指導を行う努力が見られる。生徒が自ら自分の進路を選び取るための力をつけさせたい。</li> <li>安易な上級学校への進学指導は、避けるべきで、あくまで個性を優先すべきである。</li> </ul>
---